

第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

報告書資料 一般 - 65

学校名・団体名	知立市立知立南小学校
コース	学校支援
活動・研究のテーマ	こん虫王国 ～トンボやヤゴの楽園づくりを通して～

〈活動・研究の意義および活動報告〉

1. はじめに

本校は、平成23年度から総合的な学習の時間において「いきもの環境学習」として環境教育に取り組んできた。各学年で教材とする生き物を1つ決め、調べ学習や飼育活動を通して環境を大切にする意識を高めてきた。平成28年度からは、次期指導要領の改訂にともない主体的、対話的で深い学びができるよう総合的な学習の時間も見直し、今まで行ってきた「いきもの環境学習」を「いきもの学習」とし、持続可能な社会の担い手をつくるため、多様性を大切にし、共生の意識を高め、命を大切にする教育を模索し始めた。「トンボ学習」を行っていた3年生は、「こん虫王国」とし、トンボだけでなく、カブトムシ、チョウと昆虫の種類を増やし、それら昆虫の生息場所を調べる中で多様な虫の生き方に気づかせたいと考えた。これまでの実践の中で、子どもたちの思いや願いを大切にしながら、カブトムシやチョウが安心して住めるにはどうすればよいか考えさせ、好む木を植えて、「カブトムシの森」「チョウの楽園」を子どもたちとともに校内につくり、達成感をもたせることができた。



〈チョウの楽園〉

本年度、3年生は、総合的な学習の時間で取り組む「いきもの学習」において、4月当初から3種類の昆虫について飼育活動を始めた。カブトムシは市内にある梨園を経営する大野さんからその幼虫を譲り受け、育て始めた。チョウについては、校内に植えてあるミカンなどの木の葉についた卵や幼虫を採取して飼育活動を始めた。そして、トンボは、プール清掃に合わせてプールに棲み着いたヤゴを救出することからその飼育活動を始めている。それぞれを教室で飼育する中、餌の違いや棲む環境の違いなどに気づきながら羽化するまで育て、羽化の様子を間近で観察することで感動を味わってきている。

2. 校内にビオトープを

夏休み明けから秋にかけ、次第に昆虫の活動が終息する中で、それぞれの昆虫についてもっと増やしたいという子どもたちの思いや願いのもと、それぞれの昆虫にとっての楽園とは何かを考えさせた。自分の取り組みたい昆虫について1つ自分で決めさせ、その昆虫の楽園を自分たちの手で作る活動へと移っていった。カブトムシとチョウについては、前の学年がその思いのもと考えて作ってきた「カブトムシの森」と「チョウの楽園」が存在しており、カブトムシとチョウのグループについては、その場所の調査を開始したが、ヤゴ（トンボ）についてはまだ楽園が存在していなかった。

ちょうどその頃、本年度からビオトープについて「いきもの学習」に取り組んでいる6年生が、町内にあるビオトープについて調査、研究する取り組みの中から、校内にはなかった水生生物のビオトープを作りたいという願いをもつようになったグループがあった。12月に入り、その計画が具体的に始める中で、3年生にもその活動について知らせ、校内にはない「ヤゴの楽園」を作りたいという願いを、必要



〈楽園活動計画づくり〉

なものを前期の飼育の経験から考えさせ、設計図的なものを作り6年生へお願いに行く計画を立て、準備し始めた。



〈6年生へヤゴの楽園計画を発表〉

1月になり、ヤゴのグループは自分たちの考えたヤゴの棲める池について自分たちなりに設計図を考え、堂々と6年生に対して説明した。そこには、ヤゴに必要な餌であるメダカや羽化するために必要な草やとまることができる棒などがあつた。ビオトープ完成後に入れるためのメダカや水草を、地域のビオトープから採取する活動にも取り組み、完成に向け自分たちのできることを考え、実行することができた。

6年生はそれを受けながら、今まで調査してきたビオトープなるものについて自分たちの考えを形にし、1月終わり頃、学区にある知立園芸（施工業者）に説明し、具体的な設計を依頼した。その後、業者が作成した本格的な設計図について説明を受け、さらに検討をして2月14日から施工ということになった。本体工事は2日ほどで終了し、植物を6年生が自分たちの手で植える作業をして完成に近づいた。そして、6年生の子どもたちは3年生とともに完成式をしたいと願い、計画していった。



〈ビオトープ工事〉

以上の活動が進む中、地域にビオトープを作りたいと思いをもっていた6年生のグループは、学区内の伝説が残る「機織池（はたおりいけ）」が埋め立てられて公園になるということを知り、それならばそこに今ある池ではないが伝説の残る池とともにビオトープにして自然を残したいと願い、自分たちの考えを形にしていく活動をしていた。それを1月に入りまずは校長先生にプレゼン



〈林市長さんとテープカット〉

ンを聞いてもらい許可を得て、「機織池」のある町の区長さんや学校評議員の方に聞いてもらうことになった。子どもたちが自主的に発表内容を考え、発表の仕方などを考える姿は、計画に納得を与えるものとなっていた。それらの計画を、自分たちなりに計画書にまとめて提出できるよう教師は支援した。そして、2月21日、学校評議員会において区長さんや学校評議員さんに対し臆することなくプレゼンすることができた。その高評の中で、最終的には市の財政で防災を含んだ埋め立てが進むことを知った子どもたちは、自分たちの計画を市長さんにも聞いてほしいと考えた。ちょうど校内ビオトープの落成式の計画をし始めていたので、そこに市長さんと呼び、自分たちの計画を伝える場にしたいと考え、完成式の計画がさらに進んだ。

市長さんを都合のつく3月5日に招き、6年生の機織池グループは、市長さんに対し機織池をどうしていきたいかのプレゼンをした。そして、3年生とともにビオトープの周りで落成式を行った。

この後、6年生はこれらの経過をその思いや願いとともに、卒業を前に「いきいきタイム」（総合的な学習の時間「いきもの学習」の発表）を計画し、校内にできたビオトープを作った経緯と目的、今後この池に集まるいきものとともに大切にしていってほしいことを伝えていこうと決意した。

3. 取り組みから得られた効果

2年生の生活科で自身の思いや願いをもとに活動してきた3年生の子どもたちは、総合的な学習の時間で自分たちの思いや願いが実際の形になったことで大きな達成感が得られた。さらには、6年生の「いきものの楽園（ビオトープ）」の学習の中で、3年生と少なからず協働しながら校内ビオトープを卒業前に作り上げたことは、6年生にとっても大きな達成感が得られた。3年生と6年生が、楽園を作るためにはどうすればいいのかという問題に対して、自分なりに考え、周りの子どもたちとともに練り上げて地域の方に支えられながら作り上げたため、ビオトープに愛着をもち、大切にしようとする気持ちが生まれている。特に3年生は今後、学年が上がってもその思いは消えることはなく、その経験が6年生となって生きてくることを期待する。6年生になったとき、「機織池ビオトープ」作りにかかわり、地域とともに大切に環境を持続し、いきものと共生していこうとする考えをもつようになるよう支援したい。今後も、周りとの対話をしながら主体的に解決していく子どもたちの姿をさらに実現していきたい。



〈いきものを放流し完成を祝う〉